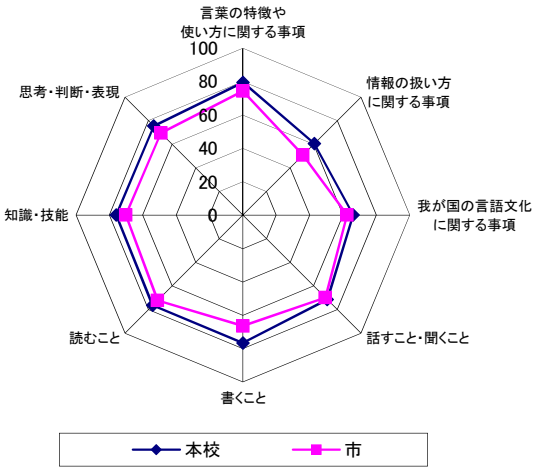
宇都宮市立姿川第二小学校 第６学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	79.5	74.3	74.8
	情報の扱い方に関する事項	60.6	50.9	48.4
	我が国の言語文化に関する事項	66.1	62.4	60.8
	話すこと・聞くこと	71.5	69.9	69.7
	書くこと	76.6	66.4	64.6
	読むこと	76.4	72.3	71.0
観点別	知識・技能	75.8	70.1	70.0
	思考・判断・表現	75.5	69.5	68.2

※参考値は，他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

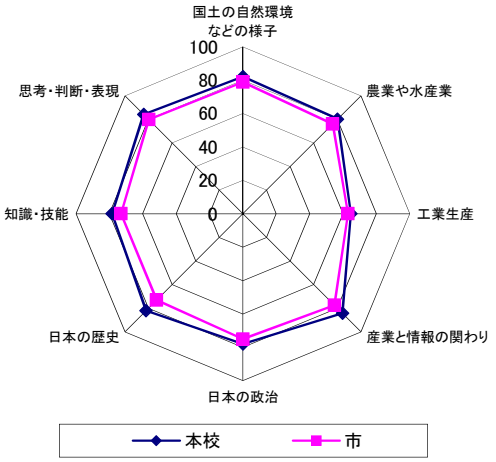
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は，市の正答率よりも高い。 ○漢字の読みでは，正答率は市の正答率を上回っていて，ほとんどの問題で正答率が9割を超えている。 ○尊敬語と謙譲語の正しい使い分けはできていないが，謙譲語の意味については理解している。 ●文脈に沿った漢字を適切に使うことに課題が見られる。	・漢字の書き取りだけではなく，文章の中で実際に漢字を使うような場面を設定し，習熟を図る。 ・漢字の意味を理解し，例文に慣れさせ同音異義語の定着を図る。 ・尊敬語と謙譲語を使うような場面（電話の対応など）や依頼の手紙を書く活動など，実際に体験させたり書いたりする活動を取り入れる。
情報の扱い方に関する事項	平均正答率は，市の正答率よりも高い。 ○複数の資料から必要な情報を読み取る力が十分付いている。	・新聞などの資料を使って，必要な情報を読み取る活動を積極的に取り入れる。 ・条件の付いた文章を書く場合も読み取りのポイントを習得できるよう，目的に応じた文章を簡単にまとめて書く活動を取り入れる。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は，市の正答率よりも高い。 ●漢字のつくりや由来についての理解に課題が見られる。	・新出漢字の学習の際に成り立ちやできかたについて確かめる。 ・漢字辞典を使った学習を取り入れ，漢字の意味やつくりを興味や関心をもたせ定着を図る。
話すこと・聞くこと	平均正答率は，市の平均正答率より高い。 ○話し手の目的に応じて，話の内容を捉えることができている。 ●互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合う問題では，全国も市も本校も，平均正答率が25%前後と低めである。	・日常的に簡潔に話す機会を設け，自分の考えや気持ちを発表できるできるようにするとともに，良い発表を取り上げるなどして，良さを共有し生かせるようにする。また，話合い活動において，自分の考えを話す活動だけでなく，友達の発表の要点を意識して聞けるように指導していく。 ・司会者や発表者などの立場の違いを意識させるとともに，その役割を実際に行わせる活動を意図的に設定する。
書くこと	平均正答率は，市の平均正答率より高い。 ○「指定された字数で書くこと」「2段落構成で文章を書くこと」「グラフから読み取った事実を書くこと」の3項目については，全国・市の平均正答率より10ポイント以上高い。 ●自分の考えを説明するための資料を選ぶ問題において，若干ではあるが，全国・市の平均正答率を下回る。	・昨年度と今年度の学校課題であった表現力を中心とした研究成果の表れと考えられる。さらに，様々な場面で書く機会を設け，さらなる書く力の習熟を図る。 ・授業や家庭学習の中で，テーマや文章構成を設定した短作文課題をこれからも継続して取り組ませたい。
読むこと	平均正答率は，市の平均正答率より高い。 ○登場人物の心情や行動について，描写を基に捉える問題では，全国・市の平均正答率より高い。 ●文章全体の構成を捉える問題では，全国・市の平均正答率より高いが，他の正答率に比べると低い。	・今年度の取り組みの成果の表れと考えられる。これからもある程度長い文章の特長を類型化する課題を取り入れ，初めての文章にも抵抗なく取り組めるようにしていきたい。 ・文書を要約したり小見出しを付けたりする学習を意図的に取り入れ，文章全体の構成を正確に捉えられるように指導していく。

宇都宮市立姿川第二小学校 第６学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	82.2	78.9	75.4
	農業や水産業	80.2	76.1	71.2
	工業生産	64.7	62.9	59.4
	産業と情報の関わり	84.3	77.6	59.7
	日本の政治	78.0	75.0	79.3
	日本の歴史	82.1	73.1	72.8
観点別	知識・技能	78.4	73.0	71.4
	思考・判断・表現	84.1	79.8	71.9

※参考値は，他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

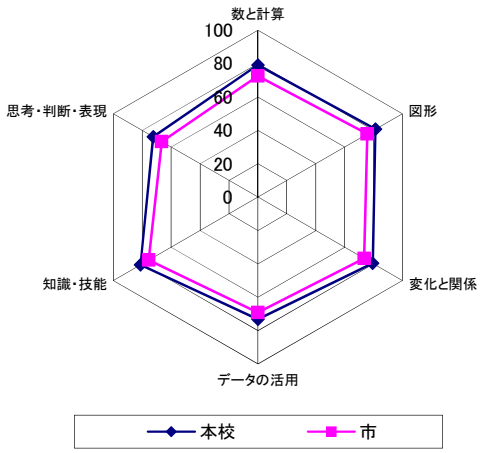
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	平均正答率は，市の正答率より高い。 ○日本の周辺の海洋名を選ぶ設問では，市の平均を上回っている。授業の中で，地図帳やICTを活用し，視覚的な理解を図ったことが成果であると考えられる。 ●国旗から国名を選ぶ設問では，市の平均を下回り，課題が見られる。 ●日本の主な地形の名前を選ぶ設問では，正答率が50.2%と低く，課題が見られる。	・地図帳やICT，個人用タブレットPCを使って，日本周辺の国や領土を視覚的に理解させる。 ・日本とその周辺の国について，国旗や文化，言語等の特徴について理解を深められるように，教材や授業を工夫する。 ・白地図やワークシートなどを活用して，日本の主な平野，山脈，河川名等の日本の地形について理解を深めていく。
農業や水産業	平均正答率は，市の正答率より高い。 ○米の生産量上位5県の地図上の位置を選ぶ設問は，市の平均正答率を上回り，よく理解できている。 ○複数の資料を読み取って正しい文を選んだり，グラフを読み取って正しい文を選んだりする設問は，市の平均を上回っており，よく理解できている。 ○津波から生活を守る仕組みや人工林の意味を選ぶ設問は，市の平均正答率を上回り，正答率が高い。	・資料から情報を集める技能，収集した情報を社会的な考え方によって読み取る技能，読み取った情報を問題解決に沿ってまとめる技能について，児童が身に付けられるように繰り返し指導していく。 ・日本の食料生産について，資料を読み取り，話し合う活動を取り入れることで，日本の食料生産の特徴を考え，その理解を深められるようにする。
工業生産	平均正答率は，市の正答率よりやや高い。 ○自動車工場の作業工程の順番を選ぶ設問の正答率は90.7%と高く，よく理解できている。 ●大工場と中小工場の理解をもとに資料を読み取る設問では，市の正答率を下回り，課題が見られる。 ●日本の鉱産資源の輸入について資料を読み取る設問では，市の平均正答率を4ポイント以上下回り，課題が見られる。	・工場の作業工程や工場の種類について，教科書や資料集などで確認し，理解を深めさせる。 ・日本の鉱産資源の輸入先について，資料集や地図帳をもとに白地図にまとめさせる活動を取り入れて，理解を深める。 ・資料を比較する，関連付ける，統合する，といった各種資料を読み取るための技能的側面に注目した活動を取り入れ，資料活用能力を身に付けさせる。
産業と情報の関わり	平均正答率は，市の正答率より高い。 ○インターネットを利用するときの注意点について正誤を選択肢で回答する問題の正答率は，90%以上と高い。 ●資料をもとに，コンビニエンスストアのポイントカードの利点を考えて，適切な言葉を入れる問題についての正答率は市の平均を8.4ポイント上回っているものの，正答率が７５%へ到達しない。	・今後もインターネットを正しく安全に使用するために，情報モラル教育の充実を図る。 ・様々なメディアに実際に触れる機会を設け，それぞれの情報の種類や特色について調べたり話し合ったりする活動を取り入れたり，情報活用により私たちの生活をよりよくすることができることを身近なものから例示したりすることで，情報と産業との関わりについて理解を深められるようにする。
日本の政治	平均正答率が，市の正答率より高い。 ○日本国憲法の三原則に関する設問では，市の平均を約5ポイント上回っている。 ●国会の仕組みに関する設問では，市の平均を1.7ポイント下回っており，課題が見られる。	・これまで行ってきた新聞やニュースなどを利用し，継続して時事問題について取り上げていくことで，社会に関する児童の興味関心を高めていくようにする。 ・授業の中で，国会のしくみや三権分立についてロールプレイや動画視聴等を行い，日本国憲法の内容を結び付けて考えることで興味をもたせ，さらなる理解を深められるようにする。
日本の歴史	平均正答率は，市の正答率より高い。 ○全ての設問において市の平均を上回っており，全国正答率も上回っている。各時代の文化の理解を問う設問では，市の平均を16.3ポイント上回っている。 ●江戸時代の様子を問う問題では，市と全国の平均は上回っているが，他の設問に比べると正答率がやや低く課題が見られる。	・武士の世の中で，つくられた世の中の仕組みなどを各時代の様子や背景と照らし合わせながら，まとめの学習を行い，理解を深めていく。 ・授業の中で資料を基に考えられることを表現する機会を多く設ける。

宇都宮市立姿川第二小学校 第６学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	79.1	72.6	73.1
	図形	81.4	75.7	74.7
	変化と関係	79.4	73.6	66.1
	データの活用	73.2	69.2	70.7
観点別	知識・技能	81.2	75.5	74.4
	思考・判断・表現	72.4	66.5	67.2

※参考値は，他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
（算数では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。）



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

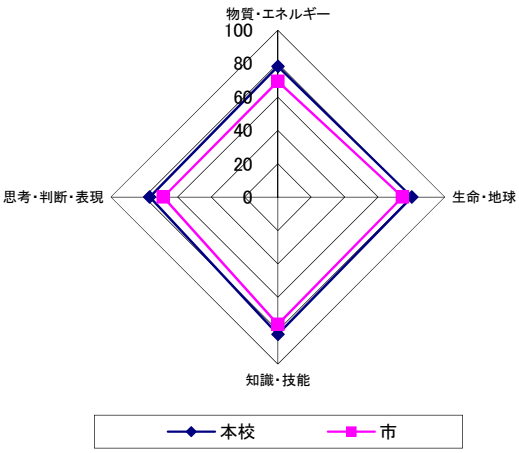
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は市の平均より6.5ポイント上回った 。 ○文字を使った式が表す場面を選ぶ問題では，市の平均正答率を15.1ポイント上回る88.1%と高い正答率だった。 ●小数の乗法考え方を基に，整数×分数の計算の仕方を考え説明する設問では，市の平均正答率を7.2ポイント上回ったものの，55.9%と低い正答率だった。	・分数の乗法の計算のしかたについては，分数の意味や計算に関して成り立つ性質などに着目し，整数の計算に帰着するという見方，考え方において解決ができるよう，繰り返し問題を解く。また，求めた結果について振り返りそれがどんな大きさの数であるのかを説明するなどの活動も大切にし，定着を図る。 ・児童の実態に応じて発展的な問題を解決する力も身に付けられるよう，習熟度別学習を生かして個に応じた指導の徹底を図る。
図形	平均正答率は市の平均より5.7ポイント上回った 。 ○高さが図形の外にある平行四辺形の面積を求める式を選ぶ設問では，市の平均正答率を19.5ポイント上回る88.1%と高い正答率だった。 ●三角形の内角の和が180°であることを理解し，２つの内角が与えられた三角形の1つの外角を求める設問は，市の平均正答率を5.2ポイント下回る67.8%と低い正答率だった。	・合同と三角形，四角形の単元の学習においては，三角形の内角の和の性質や一つの内角とその外角の和の性質などの基礎知識をしっかりと定着させていく。また，それを活用して未知の角の大きさを計算で求めることで，三角形の内角と外角の関係性の理解が深まるように指導していく。 ・図形の領域に関しては，作図などに個人差が見られ，丁寧に指導していく必要があるので，習熟度別学習を生かして個に応じた指導の徹底を図る。
変化と関係	平均正答率は市の平均より5.8ポイント上回った。 ○速さの単位の関係を理解し，分速を秒速や時速に直す計算の問題では，市の正答率よりも，13.4ポイント上回った。 ○その他の設問についても全ての設問について市の正答率を上回った。 ●分速を秒速や時速に直す計算についての設問の正答率は70.3%と他の設問に比べて低かった。	・単位量あたりの大きさや速さの単元の学習において，数量の関係が理解できるように，言葉や，図，式など複数の方法を用いて説明したり自分の考えをまとめたりする活動を取り入れることで，数量の関係についての理解が深まるように指導していく。 ・単位の関係について，計算練習も取り入れることで，定着を図っていく。
データの活用	平均正答率は市の平均より4ポイント上回った。 ○どの設問についても市の平均正答率を上回った。 ○平均を求める設問や，円グラフの読み取りの設問について，正答率が90%を超えている。 ●データの見方について，代表値を用いて，ある値が全体の中でどのような値かを求める設問について，市の平均を上回っているが，正答率が30.5%と他の設問に比べて低かった。	・データの見方の単元について，最頻値や度数分布表などの理解を促すため，学級のデータなど身近なデータを取りあげながら学習を進めていく。また，様々なデータを取りあげて読み取ることで，それぞれの値についての見方が定着するように指導していく。 ・記述で解答する設問について課題が見られるので，自分の考えを記述してまとめる活動を取り入れていく。また，問題やデータを根拠として自分の考えをまとめていけるよう指導する。

宇都宮市立姿川第二小学校 第６学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	78.3	69.3	65.7
	生命・地球	80.3	74.7	77.8
観点別	知識・技能	82.2	76.2	76.4
	思考・判断・表現	76.8	68.7	68.6

※参考値は，他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	平均正答率は，市の正答率より高い。 ○「電流のはたらき」では，電磁石の性質やはたらきについてよく理解しており，市の正答率を上回っている。 ○「ふりこのきまり」では，1往復する時間とふりこの振れ幅との関係を調べるための実験方法や，ふりこの周期について理解しており，市の平均正答率を上回っている。 ●「物の燃え方」では，全ての設問で市の平均正答率を上回っているが，ろうそくの火が消えた理由の記述については正答率が56.8%であり，今後の課題が見られた。	・実験を行う際には，課題意識をもたせ，仮説を検証するための実験方法を児童に考えさせる機会をより多く取り入れる。 ・観察する観点を明確に示し，実験結果を整理する際には，実験の前後の変化の様子を絵や図を用いて視覚化を図るなど，指導方法を工夫する。 ・児童が観察，実験などの結果を整理し，考察，表現する活動を多く取り入れ，科学的事象を正しく捉えられるようにする。
生命・地球	平均正答率は，市の正答率より高い。 ○「植物のつくりとはたらき」では，植物の葉と日光の関係について調べる実験についてよく理解しており，実験結果と関連付けて植物の生育に日光が必要なことを記述する問題では，市の正答率を大きく上回っている。 ○「月と太陽」では，月が輝く理由や，月の動きについて理解しており，市の正答率を上回っている。 ●「動物のからだのつくりとはたらき」については，だ液の実験の条件について理解が不十分であり，市の正答率を下回っている。	・実験をする上で，根拠のある予想や仮説を立てたり，友達の予想を聞いて，その内容を理解したりする活動をした上で実験に取り組ませ，絵や図とともに言葉でまとめる活動を取り入れる。 ・「動物のからだのつくりとはたらき」では，コロナの感染対策を行いながら実際に実験を行ったり，出来ないときも動画や人体模型などを用いて視覚的に捉えさせたりして，理解を深める。 ・既習事項との関連を図りながら，理解を広げ深める時間を取り入れる。

宇都宮市立姿川第二小学校
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で，重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
言語活動を意識した学習展開の工夫	・語彙力を増やすための国語・漢字辞典の積極的な活用 ・音読・短作文作り ・語彙・文法の基礎定着を図ったプリント学習 ・読書の推進	・国語の「言語の特徴や使い方に関する事項」では，市の正答率より約5ポイント高かった。 漢字の読みでは，正答率は市の正答率を上回っていて，ほとんどの問題で正答率が9割を超えている。 ・国語の「書くこと」では，市の平均正答率より高かった。 ・土日において，1日にどれくらい本を読んでいるかというアンケートで，ほとんど読んでいないという市の平均回答率28%～40%と比べると，どの学年とも16%～20%と半分くらいであり，本校としては読書が習慣化されていることが分かる。
相手意識を大切にした主体的な「伝え合い」活動の工夫	・授業の中で，自分の考えを文章や図などで説明したり，友達同士伝え合ったりするなど，表現する場を意図的に位置付ける。	・「グループなどでの話合いに自分から進んで参加している」に肯定的に回答した児童の割合は，低学年は市の平均を下回っていたものの，中学年以上は上回った。6年生においては，市の平均より約10ポイントも上回っていた。 ・3年生以上で「自分の考えを理由・根拠を挙げながら話すことができる」に肯定的に回答した児童は市の平均を上回った。6年生においては，80.7%と高い水準であった。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・県の調査で「自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい」と回答した４・５年生の児童の割合は，６２%～６５%だったが，市の調査で，「授業で習ったことを，自分なりに分かりやすくノートなどにまとめている」と回答した児童は，各学年とも８０%を越えていて，ほとんどの学年で市の平均を上回っていた。また，３年生以上で「自分の考えを理由・根拠を挙げながら話すことができる」に肯定的に回答した児童は市の平均を上回った。６年生においては，８０．７%と高い水準であった。これは，分かりやすく相手に伝えるために，根拠を挙げながら自分の意見を書いたり，発表したりする活動に取り組んできたせいかと考えられる。今後も，自分の言葉で書く活動や示された言葉を使いながらまとめる場を取り入れていくなど，書く活動を意識して取り入れていく。
・県の調査で，「漢字の読み方や言葉の意味が分からないときは，辞書を使って調べている」に肯定的な回答をした児童は，４・５年生ともに，市や県の平均より下回っていた。そこで，辞書を意図的に授業で活用したり，意味調べ等の宿題を出したりして，習慣化できるように取り組んでいく。
・県の調査で，「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」と回答した児童は，５０%以下であり課題が見られる。授業中，ペア学習や小グループでの話合いでは自分の考えを伝えることはできるが，相手に分かりやすく伝えたり，全体の前で友達の意見をもとに自分の考えを深め，伝えたりすることは不十分である。今後は，相手に分かりやすく伝えたり，説明したりすることを意識させ，一層の表現力の育成に努める。また，授業の中で，自分の考えを文章や図などで説明したり，友達同士伝え合ったりするなど，表現する場を意図的に位置付ける。また，引き続きデータから読み取れることを自分の言葉で表現する活動の充実を図る。
・市の調査で，３年生以上の「本を利用して学習に関する情報を得ている」「インターネットやパソコンを利用して学習に関する情報を得ている」と回答した児童の割合は，どの学年も市の平均を上回った。これは，相手に分かりやすく伝えるために，根拠を明らかにして発表するように指導してきた成果であると考えられる。今後は，調べる目的を意識し，集めた材料を比較したり分類したりする活動を重視する。また，伝えたいことを明確にしてからまとめるように指導していく。